

あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子
ネットストーリー

“NPOの就職活動”編



シリーズ～NPOへの素朴な疑問～〈第10回〉

NPOのミッションと事業性

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

近江鉄道株式会社

地元密着企業ならではの特性を活かして、アイデアと遊び心のあるサービスを提供していきたい。

あうみネット リレーエッセイ

トピックス

座談会・NPOで働くということ

スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- グルポ・イペ
- マキノまちづくりネットワークセンター
- 民間ボランティア組織 外出支援センター「ひの出」

伝言板 11月・12月

センターインフォメーション

淡海ネットワークサロン開催のお知らせ
淡海ネットワークセンター運営委員がすすめる
気になる一冊
ほか



淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第10回 NPOのミッションと事業性

NPOはミッション志向の団体である。ミッション (mission) は「使命」と訳されることから、NPOのミッションという場合は、そのNPOの果たすべき役割や設立目的を表すものであると言える。ミッションはNPOが社会的な課題に対しどうしていきたいのか、NPOはどのような社会をつくりたいのかを外に対して高らかに表明するものであるが、一方、組織内では役員や会員の行動規範となるものという言い方もできるかもしれない。

以前このコラムで介護保険におけるNPOと企業との違いを考える中で、両者の境界がだんだんグレーになってきているのかもしれないと書いた。確かに事業型のNPOがその収益性を前面に出して活動するとなると、あえてNPOという形態をとらずに企業として活動した方がいいのではないかという場合も出てくる。それがたとえそのNPOの本来事業だとしても、そこに社会へのメッセージというものが伝わってこないようなものであれば、NPOとしての使命が果たしているとは言えないのではないかと思われるのである。

そこで思い出されるのが、NPO法人は役員総数の3分の1以内でしか役員報酬を受け取ることができないという限定がなされていることである。この規定は、役員全員に報酬を払ってもいいとなると、まさに非営利性が担保できなくなるというだけでなく、役員のパランテア性を損なうという懸念が出てくることから制限が加えられたものと言われている。(当初案は役員だけでなく、社員にもその制限が加えられていた。)

確かにNPOにとっては、その運営のために収益性を確保する事業も大事なことではあるが、ボランティア理事が多く存在することは、金儲けよりも大切なNPOの持つミッションに向けての活動にNPOが励むことが期待されているとも言えるのである。組織化されたが故に、組織維持のためにNPOの持つミッションに合わないことも数多く行われているのが、実はNPO社会を望むものにとっては悲しいことであったりする。

NPOの高邁な思想であるミッションは、ある事柄に対して問題を発見し、その問題意識を何人かの仲間と共有していくというNPOの成り立ちそのものである。事業型のNPOが増えていく中、NPOが輝きを持って発展していくには、団体設立の原点に立ち返るといふスタンスが大切なのではと今更ながら思う。

(市民熱人)



総務課、広報担当の大橋 禎さん。



大津市で運行中の超低床式小型ノンステップバス「レオちゃん号」。

また、2002年5月からは「サイクルトレイン」を運行。環境にやさしい自転車の利用促進と利用者増加を目指したもので、電車に自転車を無料で持ち込むことができます。現在は一部の区間と駅・時間限定で持込可能。ローカル線ならではの取り組みとして注

目をされています。近江鉄道といえは「ガチャコン」の愛称で知られる滋賀県のローカル線。のどかな自然風景の中を走りぬげるその姿は、沿線の住民はもちろん、全国の鉄道ファンを魅了しています。古くから地元密着企業として親しまれてきた近江鉄道ですが、その取り組みも時代の流れとともに、多くの分野へ枝を広げています。環境問題が注目されはじめた2000年11月には、社内に「エコロジ推進委員会」を設置。「環境にやさしく」を合言葉に、観光バス、路線バスのエコドライブ推進運動を実施してきました。その結果、3年間でドラム缶4,482本分の軽油を節減、CO2換算で2,331トンの排出減を達成することができました。

このほか、駅舎のギャラリー化や五箇荘町、彦根市内でレトロバスを運行するなど、地域と協力して積極的な社会貢献活動を展開しています。地元企業ならではの特性を活かし、独自の視点で展開されるアイデアやサービスの数々。その領域は、環境・福祉・観光・地域交流、その他あらゆる分野にまで広がっています。



自転車の持ち込める「サイクルトレイン」。

近江鉄道株式会社 本社
TEL.0749-22-3301 FAX.0749-23-8418 <http://www.ohmitudo.co.jp/>

めとてつなごう

市民&企業&行政ねごと

地元密着企業ならではの特性を活かして、アイデアと遊び心のあるサービスを提供していきたい。

近江鉄道株式会社

近江鉄道といえは「ガチャコン」の愛称で知られる滋賀県のローカル線。のどかな自然風景の中を走りぬげるその姿は、沿線の住民はもちろん、全国の鉄道ファンを魅了しています。

目をされています。

福祉面では「介護タクシー」を導入。

ホームヘルパー2級資格を取得したケアドライバーがきめ細かなサポートをし、好評を得ているほか、大津市内でのスロ

ープ付き超低床式小型ノンステップバスの運行や駅舎のバリアフリー化を進めています。

古くから地元密着企業として親しまれてきた近江鉄道ですが、その取り組みも時代の流れとともに、多くの分野へ枝を広げています。

このほか、駅舎のギャラリー化や五箇荘町、彦根市内でレトロバスを運行するなど、地域と協力して積極的な社会貢献活動を展開しています。

独自の視点で展開されるアイデアやサービスの数々。その領域は、環境・福祉・観光・地域交流、その他あらゆる分野にまで広がっています。

「子どもたちに楽しい記憶を」

心をむすび* りーエッセイ



若葉こども文庫
原 幸代さん

今回は民家調査をしている
吉見 静子さんです。

この地でこども文庫をはじめ23年目に入る。近江八幡市の新興地で、図書館は遠く、こどもに本を！という気持ちで始めた。開くのは週一回で、毎年、たなばた会とクリスマス会をし、大型絵本、大型紙芝居、エプロンシアター、巻絵など小さなプレゼントを楽しむ。お手玉を縫ったり、牛乳パックのクリスマスツリーを作ったり、マドレーヌを焼いたり、笹に短冊やおせんべをぶら下げたり、とささやかな手作りプレゼントである。

クリスマス会には、座布団を並べて子ども達を迎えた。半年経ったたなばた会は、暑いので座布団を出さずいると二年生の男の子が「小母ちゃん、座布団ひくね」と並べ始めると、小さい子も手伝った。嬉しかった。

子ども達の中に楽しい記憶として、文庫・紙芝居・座布団・プレゼントと入っているのだろう。八幡を古里とする子どもたちに、本の内容と共に一つでも楽しい記憶をふやしてあげたい。

TOPICS

「NPOで働くところへ行く」

座談会

ボランティアや市民活動に興味を持つ人が増えてきて、自分の余暇時間をそういったことに使う人が増える一方、仕事としてそれらの活動を支える人がいます。今回のおうみネットでは、「じじ」としてNPOに関わっている人に、そのきっかけや思いを語っていただきました。

■NPOで働くようになったきっかけをお聞かせください。

西川 結婚を機に退職し、出産してしばらく家にいたんですが、やはり何かの形で社会に関わっていきたくて思っていました。でも、女性が仕事を続けていくのはいろんな意味で大変なんです。今の仕事は自分の空き時間をもっと活用してできる。一回辞めてもそれなりに続けていけると思います。ごく自分には合っていると思います。

木原 最初、大学のゼミの授業で気候ネットワークを訪ね、面白かったので、結局居着いてしまいました。これが一生の仕事になるかどうかはもちろんわからないんですけど、とりあえず今、一番やりたいことがこれだったのでやっていますということですね。

内山 私の場合、震災ボランティアがきっかけなんです。今31歳なんです



●内山博史さん(31歳)

環境問題に興味を持ち農学部で学ぶも、理系の考え方に疑問を抱き、勉強し直して政策学部へ再入学。その頃大震災が起き、大学で「震災ボランティア情報センター」を立ち上げる。様々な市民活動やボランティアに関わりその後、NPO政策研究所に就職。現スタッフ兼常務理事。

就職は「働くこと」「暮らすこと」「生きていくこと」の3つのバランスをどう取るかということ。NPOでそれを示せなければ、後が続かないのでは。

が、30歳代で有給スタッフという形で関わっている人は非常に少ないんです。そう考えたときに、自分は実はボランティアなんだ、この分野ではここに就職を決めたときに意識しました。そういう分野で働く刺激はありますね。

■生活できるという保障がないと、仕事として続けていくのはなかなか難しいですよね。

内山 「養おう」とか「自分が大黒柱になるんだ」と思わなければ、大丈夫だと思えます。大学の同級生から「夢があつていいな」とよく言われるんですけど、その裏返しには「夢みたいなことをいつまでやっているんだ」という思いがあるのは、すごく感じます。

木原 夫婦が二人とも働くとしたら稼ぎはお互い少なくて何とかなるかもしれないですね。でも今の労働時間だと、人間関係がうまくいかないかもしれないですね。NPOは思いを持った人の集まりなので、お金を稼ぐ以外に本来やりたいことがあるわけです。両方やる時間がなくなるのは当たり前という感じで、かなりしんどくなってきました。ただ、今後社会でNPOがもっと

認知され、本来やりたい仕事、社会に必要な仕事に対してお金がついてくるようになってくるといえるでしょう。希望はあります。そのためにも、まず自分がしっかりやらなれと思っています。

■結局はNPOが認知される社会をつくるってのもみなさんの役割にたるとは思っています。

内山 僕は、ボランティアとしてこの活動に関わっているつもりはなくて、仕事だからという部分が多くて、大きいですね。だけどやっぱり半分くらいはボランティア的な部分があつて、興味がないと当然できないです。そういう意味では来ていただいているボランティア



NPOにはいろいろな関わり方があり、それが許されるのがNPOだと思います。ですから、私は企業とは違う価値を持っていいんだと思います。



●西川実佐子さん(44歳)
滋賀総合研究所で10年弱勤務後、結婚を機に退職。出産を経て、社会との関わりを求めて短期大学の非常勤講師へ。輝くひとまちネットワーク滋賀への関わりから、今年7月NPO法人ひとまち政策研究所設立を機に同研究所に勤務。スタッフ兼常務理事。

の方とは、ちょっと意識が違う関わり方をしていると思いますが、反対に、僕はいろんな仕事をしているにも関わらず、ボランティアしている人はずいといなと思うんですよ。

■ボランティアと有給スタッフとの関係はどのようにお考えですか？

内山 有給スタッフばかりになってボランティアが一人もない組織というのはおかしいと思うんです。それは市民社会から遊離しているというか、単なる事業体になっているということですね。高給取りのNPOスタッフがたくさんいる世の中は果たして幸福なのかという、僕は不幸なんだと思います。NPOというのは社会問題が多いときたくさん発生するものですから、NPOがないほうがよっぽどいい社会だと思ったりもします。西川さんが、出産して仕事を辞めた後もNPOに関われるのはベストだとおっしゃいます。

たが、そういうことをもったたくさんの方が言えることの方がよっぽどすばらしいと思いますね。

木原 僕はボランティアから有給スタッフになったわけですが、そのとき有給だということをすごく意識したんです。ところがボランティアの人にそれを逆を意識させてしまっていて、それではダメだと思ったんです。「有給スタッフだから」「ボランティアだから」というふうに僕らが区切ってしまうのは良くないですね。いろんな関わり方があるということをやらないとダメだなと思います。

■スタッフの人員費を確保するためにはお金が必要ですよ。そのあたりはいかがですか？

木原 「NPOはお金を儲けてはいけないところではない」ということをみんな頭ではわかっているけど、今やっている人たちはミッション先行でやっているの、もう少し社会でNPOで働くことが認められてくると、ちょっと感覚の違う人が増えてくるのではないのでしょうか。若い人たちの中からNPOでしっかり仕事をしてお金も得て、というイメージを持って入ってくる人が出てくると思います。

内山 お金があればいいんですけど、お金では得られないようないろんなリソースというものをNPOは持っているので、そういったものの関わりを

持っているという意識がないと、どんなに事業規模が大きくなっててもなかなか成功しないと思いますね。

西川 「ボランティアで活動しているのにお金をもらうなんて」という一般の見方がありますよね。別にNPOにいてみんな儲けようとは思っていませんが、普通に生活してみんなと一緒に生きていくという当たり前のことを保障できたらいいと思っていますし、社会に対して、その点を理解してもらいたいと思っていますが、難しいですね。

■最後に、皆さんの今後の抱負や課題をお聞かせください。

西川 NPOにもいろいろな存在があるといいし、NPOに関わる人もいろんな関わり方があり、それが許されるのがNPOだと思います。ですから、私はNPOは企業とは違うぞということからへの価値を持っていいんだと思います。結局は、NPOだけではないと思います。

今後、NPOで働いてお金も得るというイメージを持って入ってくる若い人が出てくると思います。そのためには、まず自分がしっかりやらないと思っています。



●木原浩貴さん(24歳)
大学で専攻したゼミで気候ネットワークを訪れ、ボランティアとして活動を始め、卒業後もアルバイトとして関わる。行政の立場から地球温暖化や環境問題について伝える仕事を考え、一度は公務員を志すも「市民活動のほうがおもしろい」と気候ネットワークに有給スタッフとして就職。

く、それぞれの職場で、みんなが社会をよくするために働けば、世の中うまくいくんですが…。

木原 僕は社会をこういうふうにしたいからNPOで働くという選択をしていますけど、社会全体としては、社会をよくするために行政に行くとか企業に行くという様になるのがいいですね。また、僕の役割は組織の役割と同じで温暖化を防止することだと思っていますが、社会とのいろんな関わり方をいろんな人に提供するというのもNPOの一つの役割なんだと改めて認識しました。これからスタッフとしてそういう点にも心を配っていきたいと思っています。

内山 よく「NPOで働きたい」と若い人たちが相談を受けるんですが、「もう一回考え直して」という話をするんです。就職は「働くこと」「暮らすこと」「生きていくこと」この3つのバランスをどう取るかということなんです。僕自身、NPOを仕事としてこの5〜6年経験してきましたが、今も、暮らしていくということと職とのバランスをどうするかということが、自分の課題で模索中なんです。それを示さなければ、後輩は入って来ないと思います。そういうところを経験して僕がその後どういう生き方をしているのかというのがリンクしていると思うので、これをきちっと体現していけるかどうか課題ですね。

ありがとうございました。

私たちががんばっています！

NPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

**外国人は日本の「お客さん」ではありません。
文化の壁を少しでも崩したいですね。**

●グルポ・イペ

滋賀県に住む日系ブラジル人は約1万人、彦根市には674人（2001年12月末現在）が登録しています。奥村ルシアさんは日本に来て11年、井嶋タイスさんは16年になり、ともにボランティアで彦根市の広報のポルトガル語訳をしたことがきっかけで、「グルポ・イペ」を2年前に発足させました。

代表●奥村ルシア
連絡先●彦根市野田山町900-10
電話&FAX●0749-26-0951（奥村）
設立●2000年11月
会員●5名

グルポ・イペ



●代表の奥村さん（左から4人目）、井嶋さん（左から5人目）と日本語教室サポートボランティアの皆さん。

それぞれが家庭を持ち、生活が落ち着くと一番気になるのは教育です。日本で教育を受けた子ども達は学校で日本語を習うのですが、ブラジルの祖父母から来た手紙を読めません。大人達は仕事などが忙しくて日本語の習得が難しく、学校から子どもが持ち帰る連絡プリントの意味がわかりません。

●日本とブラジルの子どもたち対象の交流イベント「夏休み子どもクラブ」風景。みんなでホットドッグづくりに挑戦。



室、大人向けの日本語教室を毎週開いています。また、学校から保護者あてに配られるプリントをフ

アックスでポルトガル語に訳す活動なども続けてきました。このほか、グループの日本人ボランティア達は、すぐに生活に役立つ日本語のテキストを考案中です。

「私たちの考える文化の交流は、サンプラを踊ったり、ブラジル料理を味わってもらっただけではなく、ふつうの暮らしの中でお隣はブラジルの人というおつきあいがあればいいなと思っています」とルシアさん。定住ビザを持



●彦根市の地元商店街の夏まつりには、ブラジル式ホットドッグ屋台を出店して大盛況。

つブラジル人でも生活を取り巻く環境は厳しい。今後は県下の他のグループとネットワークを結んで外国人支援の輪を広げていきたいとのこと。
「イペ」は南アメリカに咲く花の木ですが、イペのように根付いて大きく成長し花が咲く日まで、皆で力を合わせたものです。
(編集ボランティア 大山純子)

●第2回調査会の様子



お互いが連携し合って、もっと大きな力で町を盛り上げたいですね

●マキノまちづくりネットワークセンター

海津大崎の桜、自然が残る里山、リゾートスポットの湖畔・・・春夏秋冬、多くの観光客を迎えるマキノ町。人口6000人の町、少子高齢化や過疎化が進むこの町に、自然の中での暮らしを求めて転居してくる人がいます。この新しい波の中で、何らかの形で社会貢献活動やまちづくりに参加したいという人が増えてきました。自分たちが



●月1回マキノ町全戸配布の情報誌「まちネット」とマキノ町地域文化再発見ガイド「ぎっとまっつて...」。2000年4月に発行

住んでる町をもっと魅力ある町にしたい・・・そんな思いの人々が集まって「まちづくりネットワークセンター」が生まれたのです。

活動は大きく3つ。マキノの里山や歴史を紹介するボランティアガイド事業。地域の老若男女が交流できるリサイクルショップの運営。趣味や特技を生かし、それを必要とする人に提供するというサポートボランティア事業。この3つの活動を柱に、町内のイベントや行事にも積極的に参加するとともに、これらの活動を、ホームページや「まちネット」という機関誌で町内外に発信しています。

「昔からある。田舎の付き合い」はなくなってきましたね。だからこそ、人

マキノまちづくりネットワークセンター

代表●青谷章
連絡先●高島郡マキノ町高木浜1-14-2
TEL&FAX●0740-28-8002
設立●2000年
会員●約35人
URL●http://www.ex.biwa.ne.jp/~machinet/
E-mail●machinet@ex.biwa.ne.jp

と人とのつながりを意識して残していかないと。そういう気持ちを持つている人たちがリンクさせるといのが私たちの仕事です」と事務局の藤原さん。2000年の立ち上げの年、町内を取材して地域文化再発見ガイド「ぎっとまっつて...」を編集発行しました。「ぎっとまっつて」とは「あぐらをかいてくつろぐ」という意味の地元のことばです。マキノの自然、歴史、祭味、人、これらをカラー写真を豊富に使い紹介しました。現在は、2004年の春を目指して「マキノの里山ガイドブック」の発行を計画しています。

(編集ボランティア) 井由美子 松



●事務局の藤原久代さん

遠い昔、雪の多いマキノの民家では、囲炉裏ばたに「ぎっとまっつて」座るおじいさんのそばで、子ども達は地元マキノの風習などを学びました。まちづくりネットワークセンターは、そういうマキノの原風景を大切に、魅力あるまちづくりをめざしています。

外出支援センター「ひの出」

の代表石黒さんは、大阪から日野に引越してきて初めて運転免許を取りました。実は、お母様の介護生活が長く、息抜きのため外へ出かけたかったというのが本音だそうです。かといって自分だけ遊ぶのも心苦しく、それなら似た立場の方にも喜んでもらえることをと、障害を持つ方が町内の病院へ通うお手伝いを始めました。個人で通院時の送迎を続けて5年。もっと多くの方に利用をしてもうため、また、万一事故が起きた場合のことも考え、2000年4月に外出支援センター「ひの出」を設立しました。現在利用登録者は19名、定期的な通院・入退院の送迎での出勤は月に5〜6回です。全く地縁のない石黒さんですが、こうして外出支援ボランティアを続けるうちに利用者の方とも信頼関係が生まれ、中には「親子のようにつきあえる方」もあります。しかし、地元ではこうした活動についてなかなか理解してもらえず仲間も増えないのが悩みと



●車椅子用の車。外出支援センターがもう1台あります。これで日野町を走り回る石黒さん。

か。もっと日野全体にボランティア活動の輪が広がってほしいという願いが「ひのてんびん」にはこめられています。時代は既に外出支援センター「ひの出」のような活動が必要としています。この「ひのてんびん」は近江商人の「地域よし」精神の現代版。来年の日野に注目したいものです。

新しい地縁で、互いに支えあう地域をめざして

●民間ボランティア組織 外出支援センター「ひの出」



●石黒さん考案の地域通貨「ひのてんびん」。2003年1月から1年間の実験期間を設けて実施予定。

民間ボランティア組織 外出支援センター「ひの出」

代表●石黒 稔
連絡先●蒲生郡日野町大字中在寺1102-8
TEL●0748-53-3752
mail●v-hinode@ex.biwa.ne.jp
http://www.ex.biwa.ne.jp/~v-hinode
設立●2000年1月
会員●3名

おうみNPO活動基金に100万円を寄付

NPOの基盤強化を資金面で支援するため、本年度、財団に「おうみNPO活動基金」を設けましたが、このたび(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ関西、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドから100万円の寄付を受けることになり、去る10月10日同社代表取締役副社長西邑省三氏から國松善次理事長に目録が手渡され、財団からは感謝状が贈呈されました。



2002年度版

淡海NPOデータファイル(追補版)発行

※追補版は無料です。※送料別途必要
※ご希望の方はセンターまでお問い合わせください

淡海ネットワークサロン開催のお知らせ

地域づくりやまちづくり、環境保全、国際交流、福祉等さまざまな分野の地域的課題や社会的課題に関心のある人が幅広く集い、自由に意見交換したり、ネットワークの形成を図る機会づくりの一環として、淡海ネットワークサロンを県内各地で開催します。

【テーマ】「秋の伊吹瑞雪館を訪ねる～“源流民倍増計画”～伊吹の源流を考える会の取り組みから～」(仮題)
ゲスト●谷口隆一さん(伊吹の源流を考える会)

内容●伊吹の源流を考える会の活動拠点である瑞雪館を訪ね、意見交換します。

日時●11月10日(日) 13:30～15:30

場所●瑞雪館(伊吹町大久保)

参加費●300円(お茶・菓子代)

【テーマ】「滋賀県の外国人のくらし～外国人相談窓口の現場から～」

ゲスト●竹屋久美子さん、前田オルガ豊子さん

内容●外国人相談窓口で外国人が直面する問題や悩みに耳を傾けている相談員の方をゲストに、県内で暮らす外国人の抱える問題について認識を深め、同じ地域に住む者として何ができるかを考えます。

日時●11月24日(日) 13:30～15:30

場所●野洲中央公民館

参加費●300円(お茶・菓子代)

※参加ご希望の方はセンターまでお申し込み下さい。

編集後記

県下には日系ブラジル人が人口の10%を占める町もあるとの情報にびっくり。「本音と建て前を使い分ける日本人とのつきあいが難しい」という声に国際交流以前の人と人のあり方を考えさせられました。

(編集ボランティア・大山)

介護は24時間休みがない。そうおっしゃって事務所モニターからお母様のベッドを常時見ておられる石黒さん。育児ノイローゼになりそうだった時期を思い出しながら心の中で声援を送る私です。

(編集ボランティア・幅)

小学校時代、スキー教室といえば「マキノスキー場」。同じ滋賀県なのに何故か雪国のイメージでしたが、今は四季を通して楽しむことができるリゾート地になりつつあります。最近できた「さらさの湯」もなかなかの人気ですが、私の一押しは、地元のオバちゃんもやってくる「白谷温泉」。あったまりますよ。

(編集ボランティア・松井)

淡海ネットワークセンター運営委員がすすめる

気になる一冊

「マネーの正体—地域通貨は冒険する」

デイヴィッド・ポイル著 松藤留美子訳 集英社 2,500円

本書は、1996年夏に著者がアメリカ各地の地域通貨の現場を訪れ、地域通貨運動に携わるさまざまな人と出会った旅の記録である。

日本でも、既に各地で地域通貨が続々と生まれ、テレビや新聞で取り上げられることも多くなっているが、以前、NHKの衛星放送で放映された「エンデの遺言」では世界各地の地域通貨を紹介しましたが、この番組の中で登場し、また世界的なムーブメントの先導役となったニューヨーク州イサカ町の地域通貨イサカ・アウォも本書で詳しく取り上げられている。

本書は、問題点や課題を指摘しながら、地域通貨を媒介に人々が顔の見える関係を築く様子をよく描いているほか、地域通貨の初心者にも興味深く読める本となっている。

(澤孝彦)

「モモ」

ミチャエル・エンデ作 大島かおり訳 岩波書店 1,700円

十数年前になるだろうが、初めてモモと出会ったのは。

娘が小学生の頃、一緒に読んだ記憶がある。

そして今、地域通貨に携わるようになり、そのバイブル的存在でもある「エンデの遺言」を読みながら、改めて「モモ」を読み返してみたい衝動にかられた。現代社会の矛盾や、これからあるべき姿、方向性をこの少女の言動を通して気づかせる魅力は新たな感動を引き起こします。

昔読んだ人にはもう一度、そして初めての人には是非この大人の童話の世界に入ってみたい。 (末富孝也)

Voice ボ・イス

特集「TOPICS」の座談会に参加して

「単にNPOの有給スタッフが増えれば良いということではなく、いろんな人がいろんな形でNPOにかかわる機会を増やすことが、よりよい社会を創ることにつながる」。NPOで活動されている方々が描くビジョンを聞いていると、なんだかわくわくしてきます。このパワーが息切れしないためにも、社会的必要性の高い仕事にお金がまわり、NPOスタッフの身分保障がきちんとなされる社会づくりが必要なのだと感じました。(編集ボランティア・常光和穂)

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net

■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)

火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社福協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、ささるホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

